

山形大学チーム道草

谷口銀山PRツアーを実施

10月24日、山形大学チーム道草が「谷口銀山PRプロジェクト」の一環として、同大学新入生やサークルメンバーを対象にツアーを開催しました。延べ60人が参加し谷口銀山史跡保存会(井上敬助会長)の協力のもと、洞窟を探検。その後、遊学の森でワークショップなどを楽しみました。プロジェクトリーダーの石橋飛鳥^{あすか}さんは「今後も魅力を伝えられるように活動していきたい」と話してくれました。



▲洞窟の中にはコウモリなどが生息している

有屋地域の水資源を再発見

NPO法人かねやま電雪が学習交流会

現在、町内で雪むろ活用に挑戦中のNPO法人電雪が、農村地域の個性と再生可能エネルギーによる地域活性化について考えようと10月31日交流学習会を開催しました。講師の環境エネルギー制作研究所の浦井彰^{あきら}氏は、再生エネルギーを使った地域おこしの実例を解説。また、下向地区に残る「ぼったり館」について同地区の、五十嵐スチエ氏(99歳)より解説していただき、学習を深めました。



▲出席した約30名が再生エネルギーについて考えた

▼長寿弁当を手にする黒沼さん夫妻とボランティアグループの皆さん



長寿を祝うお弁当配達

いつまでもお元気だと願いを込めて

10月25日、羽場地区ボランティアグループが、長寿を祝う弁当を羽場地区の75歳以上の50人に届けました。コロナ禍で長寿を祝う会が開催できなかったため、代わりに長寿弁当を配達。この日一番最初に受け取った黒沼さん夫妻は「長寿を祝う会がなくて残念に思っていた。でも今日みんなの顔を見ることができて嬉しい」と話し、ボランティアの方は「弁当食べて元気に過ごしてけるな」と声をかけました。

▼紅葉した木々に囲まれ、懸命に走る選手たちが会場を盛り上げた



りゅう馬マラソン記録会

小学生が遊学の森を駆け抜ける

11月3日、遊学の森を会場に「りゅう馬マラソン記録会2020」が開催され、60人の参加選手たちが、各団のライバルたちと競い合いました。主催した有屋スキースポ少の^{よしゆき}小沼慶幸監督は「大会が軒並み中止になっている中で開催できたのは、有屋スポ少の保護者をはじめ、参加いただいた方々の協力があってこそ。これからも金山町のスポーツ少年団を盛り上げていきたい」と話してくれました。



▲大人顔負けの堂々とした姿で演じる児童たち

いよいよ冬支度

初冬の風物詩「大堰鯉の越冬」

初冬の風物詩となっている「大堰鯉の引っ越し」。これから迎える厳しい冬に備えて、11月13日、町内業者と町職員5名で越冬作業が行われました。4月24日に放流された鯉は観光客や町民に癒しを与えてくれ、7ヵ月間で50cm~70cmまで大きく成長しました。引っ越しを終えた約120匹の鯉は、八幡公園で静かに冬を過ごします。春に元気な姿で大堰に戻って来てくれることを願います。



▲水位を下げ、隅に追い込み鯉を網ですくう引っ越し作業

まちのわだい



身近なわだい、お寄せください。
総務課 広報情報係 ☎52-2111(内線225)

明安子ども歌舞伎

伝統芸能を堂々披露

10月25日、金山町立明安小学校の5.6年生の児童7人が子ども歌舞伎を披露しました。この日は、「口上」、「三番叟」、「菅原伝授手習鑑 車引きの場」を披露し、見得を切ると、観客から拍手が送られました。児童たちは歌舞伎の披露のため、7月頃から週に1回練習を行ってきました。演じ終えほっとした様子の児童たちは「緊張したけど練習より上手にできた」と笑顔で話していました。

▼関係者約500人が参加し開催された



最上を拓く高規格道路

(株)カネカ佐藤麻衣さんが意見発表

第19回「最上を拓く高規格道路」建設促進合同大会が11月17日、新庄市民文化会館で開催されました。高規格道路の十字連携軸の整備に向けて開催されたもので、意見発表では、株式会社カネカの佐藤麻衣^{まい}さんが「高規格道路が整備されることで、金山町に来てくださる観光客の方が増え、新しい魅力を伝えることが可能になる。早期整備に期待したい」と発表されました。